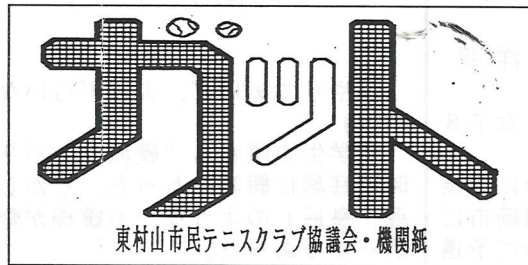


HCTC
since 1973



東村山市民テニスクラブ協議会・機関紙

コート取り当番クラブ

11月	12月分のコート	美住C
12月	1月分のコート	恩多A
1月	2月分のコート	恩多B

発行責任者・松井貞二
住所 東村山市
恩多町5-49-47

編集責任者・太田裕紀
☎ 0423-45-2727
(FAX・同)

第10回運営委員会報告

H. 9.10.12...スポーツセンター

会長連絡事項・・・柳さんの「追悼文集」は編集
中ですが、11月末に印刷へ出し、1月には発刊
の予定です。(関連記事を参照願います。)

☆ 恩多コートの使用に関する「要望書」を市長宛に
提出しました。(コピーは久米川コートに。)

連盟連絡事項・・・市民大会結果速報、(女子W)

A 1位・駒屋・秋元、2位・新沼・佐藤、3位・亀崎・原田、 神林・横井
B 1位・岩坂・宗林、2位・長谷川・井上、3位・伊藤・渡部、齊藤・吉岡
ソニア 1位・美山・本田、2位・江原・増本、3位・河嶋・大武、 稲橋・岡林

事務局から・・・11/9(日)13時・スポーツ
センター・大会議室にてオリエンテーション。

★ 忘年会は12/6(土)18時～20時半・スポー
ツセンター大会議室で開催します。(詳細は別記)

☆ 総会は来年1月25日(日)・13時～15時、
スポーツセンターで開催の予定。

技術部報告・・・スクール再開・11/9～12/21

☆ 中級スクールを11/24(振)・10時～12時(久米川)

★ 今年のイベントは中止にします。

会計部報告・・・予算執行は順調です。

広報部報告・11/3(日)10時～11時 スポセン・小会議室で
部会を開きます。

※ 各 ク ラ ブ よ り ※

恩多クラブ 9/28(7中)・10/12(村高)・10/26(7中)で、
練習会を開催しました。

青葉クラブ 11/9(日)・13時～17時セルテイスで練習会。

萩山クラブ 特にありません。

諏訪クラブ 10/12(日)7中で練習会を開きました。

美住クラブ 9/21(7中)・10/11(村高)で練習会を開催
又、11/9(日)・13時～17時セルテイスで練習会を開催します。

※忘年会のおしらせ (今年は美住クラブが当番)
日時・会場は上記「事務局欄」を参照。

会費・男性3000円、女性2500円、小中高生は1000円。

申込み・11/8(土)までに各クラブの会長へ。

納金は・11/23(日)迄に各クラブ会長がまとめて、

11月のコート情報

久米川コート

曜日	時間	練習日
土曜日	9:00～17:00	1, 8, 15, 22, 29
日曜日	8:00～17:00	2, 9, 16, 23, 24, 30

※ 白抜き文字日は市民大会のため試合後に開放。

恩多コート (早朝)

土曜日	7:00～9:00	1, 8, 15, 22, 29
日曜日	7:00～8:00	2, 3, 9, 16, 23, 24, 30

恩多コート (ナイター)

水曜日	19:00～21:00	5, 12, 19, 26
-----	-------------	---------------

* 16日はミックス・ダブルス団体戦が開催さ
れますので久米川コートの通常練習はできません
が、選手でない方も自クラブチームの応援に参加
され、親睦を深めて下さい。(実行委員会より)

美住クラブ会計・太田康晴さん又は会長(齊藤)
へ納金して下さい。

柳利夫名誉会長・追悼文集刊行のお知らせ

平成9年10月吉日

本年2月末にお亡くなりになりました、柳利夫名誉会長の
功績を讃えると同時に、市民テのさらなる発展を祈念して刊行
を目指しておりました『追悼文集』が、市体協、柏崎の皆さん
本井、森両先生はもとより、市民テ創設の頃からのご交遊の方
々、現在市民テでご活躍中の仲間の皆さんからの原稿による多
大なお力添えをいただきまして、ここに発刊のご報告ができる
ことを皆さんと共に喜びたいと存じます。

柳利夫名誉会長との出会い・思い出、テニスを通しての泣き
笑い、語り明かした夢や希望が、あの小柄で柔和な笑顔と節く
れだった太い指で求めた握手の感触までもが蘇ります。

印刷、製本以外の「原稿の作成や校正、タイトル文字、頁の
割り付け、カットの挿入や「ガット」からの引用等」の全てを
編集委員会のメンバーの手により行いました。

記
発刊予定::平成10年1月中
印刷等::オフセット印刷、並製本
発刊価格::1,000円以内予定[市民テ分 数十冊]
購入申込::下記の編集委員にお申し込み下さい。
Tel, Fax, 久米::阿萬哲大、河嶋和興、川路俊一、松井貞二
川コート等で::鶴丸 信、早川洋一、藤岡信照、黒岩俊雄

ラケットショップ ” フォ ” による
用具指導日は 11月15(土)です。

◎◎◎ Meijiテニスフェスタに参加して...◎◎◎

若手代表・内藤洋平

去る10月10・11日に市民テ若手軍団、男子8名・女子8名はMeijiテニスフェスタという大会に参加した。

大会初日、眠い目をこすりながらも7時に集合。車3台に分乗し、会場近辺の住宅街で迷子になりつつも、小1時間で川崎市にある明治製菓のテニスコートに到着。この大会は、はじめに予選3チームによるリーグ戦が行なわれたのだが、我々若手軍団は、かなりの苦戦を強いられながらも3位トーナメント進出者を出すことなく、全員が見事1位、2位トーナメントに残った。

試合後、地元に戻り居酒屋で軽く一杯。明日の健闘を祈りつつスタミナ補給のためにニンニクをたくさん食べ、大会初日を終えた。

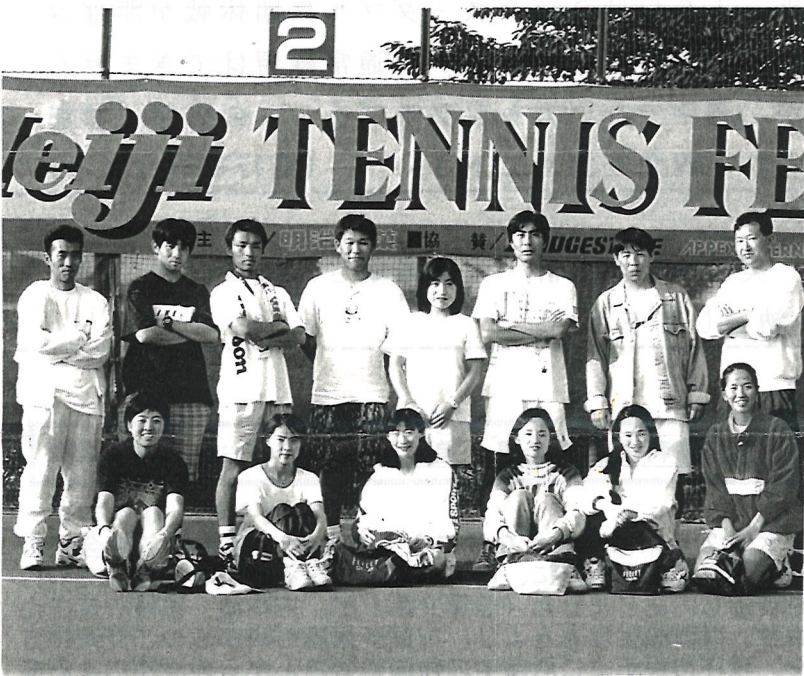
二日目、やはり活躍の際立ったのは小椋山、曾々木ペアだった。前日の息子の発熱の看病から寝不足の小椋山さんだったが、疲れを感じさせることなく1位トーナメントの決勝まで進んだ。

決勝では惜しくも敗れてしまったが、観戦している我々はその試合のレベルの高さに驚きを隠せなかった。

僕自身もその試合から非常に多くの事をあらためて学んだ。

サーブ、リターン、ボレー、ゲーム展開などありとあらゆる面で今まで自分が考えていた事の1ランクも2ランクも上をいっていて、それが今後の自分の試合に対する視野の拡大につながった事は間違いない。

いずれにせよ、今大会に参加して、若手の誰もがたくさんの事を学んだと思う。今後も積極的に数多くの大会に参加して経験を積み、現在の自分よりもさらに大きく成長できるように努めていきたい。



「台湾だより」

菘科クラブ・佐藤多喜男

(第3回)・Aさんへの手紙

いかがお過ごしですか。

便りが途絶えてもうどのくらい経ったのでしょうか。季節の変わり目のはっきりしない台湾ですが、それでも台北の街の街路樹もちょっと色づき幼い秋を感じさせています。

巷と言う字は、日本ではほとんど見かけなくなった様な気がしませんか。巷と言う字に出逢うと秋の夕暮れのもの寂しさと共に、いつも思い出す歌があります。

「ゆうべ巷に見たる子は あえかに若くはじらいて 逢瀬を問えば口ごもり 花ある家をさせりしか」 佐藤春男

「わたしは街の子 巷の子 窓に明かりが灯る頃 いつもの道を歩きます 赤い小粒の芥子の花 あの街角でひらきます」 美空ひばりの歌

「巷に雨の降るごとく 我が心にも涙ふる かくも心ににじみいる この悲しみは何やらん」 ベルレール

「巷ゆかば さみしきこともわするかと 巷へいでて涙ぬぐへる 街の子は街の娘と遊ぶめり この悲哀にあづからぬがに」 竹下夢二

僕の住む街は異国の巷 台北市金龍路222巷

まだおぼえていますか。 1997年 秋

◇◇◇◇◇ 「私とテニス」 ◇◇◇◇◇

青葉クラブ・椎津 稔

「やりてえけど、入りづらいなあ、どうにもカッコがつかねえや！」

中学生の頃から“硬派ツッパリ”で通っていた俺が、高校入学時に庭球に興味をもった。しかし当時の世風は正田のミッチー(現・皇后)のような、お嬢様が軽井沢であそぶ上品で軟派なスポーツであった。

ツッパリ仲間から馬鹿にされながらも練習に熱中した。竹刀を片手に素振り指導する先輩。

兎飛びの背中に乗る先輩。・・・上手くなりたいが為に・・・笑みを浮かべながら耐えた。

わたくしの特徴でもある『王室的、且つ紳士的』な人格は、この時期に形成されたものと、テニスに感謝している。

様々な大会出場が楽しくて、楽しくて・・・対戦相手がどんな強者でも、負ける気がしなかった。しかも、メインコートが好きだ。試合結果は別として・・・いや、殆ど別だった。

ヨッシャー!、さあコイツ!、バシッとコイ!、この様な“音”がどうも試合中に聞こえるらしい。自意識の無いこの発声が、王室的球技を庶民へも浸透させたい。功労者なのである。

高校二年の秋から、校内統一や、他校との紛争処理に多忙となり、庭球はここから二十有余年途絶えた・・・。競馬、競艇、麻雀(強いぞ)、酒と女と薔薇色の日々などを過ごしていると・・・うっかりしていたのだろうか、いつの間にか、四十路が其処まで来ていた。

四十歳の日に、女房殿から大きなスポーツバックを拝領した。テニス用具の一式入り。

感動・感激・涙腺破壊。・・・ヨッシャー又始めるか! 暫くは職場仲間と“テニスごっこ”で遊んでいたが、野球のバッテリーを組んでいる学ちゃんと、青葉町の酒師匠・敏ちゃんから“市民テニスクラブに入れヨ”と宴席での強制命令。上戸約束違わずで・・・入った。面白い、兎に角楽しい。「だけど、皆上手いなあ。」色々教えて貰う。

試合にも交えて貰うが、歯が(も)立たない。

燃えた!

練習した! 喝ッ、活ッ、勝ッ!

しかし、喉が“渴ッ”で結局ビール。

上達はしなかったが、多くの方々と出会い、皆でやる楽しさを覚えた。

近頃は「勝ちたい」から「楽しむ」

テニスに変わりつつある。

五十路を迎え、足腰と声帯の衰えを感じていますが、生活調律と

もなっている週末テニスを楽しみに

しております。

どうぞ皆様、今後とも宜しくお願い致します。



(美住クラブの合宿・スナック)



(編集後記)

今月は、青葉クラブの椎津圭子さんの御協力を頂きました。「台湾」・「松任」につづき、北から「盛岡だより」が黒岩特派員の投稿で始まります。どうぞお楽しみに・・・。(H.O)